

中部大学 2008 年度 FD 活動評価点検報告書

中部大学 FD 活動評価点検委員会

FD 活動評価点検報告書をまとめるに当たって

中部大学では、2008 年度から全学および学部・学科等における組織的な FD (Faculty Development) 活動について、評価点検を行うこととし、その結果を取りまとめた本報告書が初めての公表となる。

本学では、「FD 活動」を本学独自の FD が教員意識の中で収斂していくために、内容を 3 つの観点 (表 1) で分類して考えていくことにした。ただし、『目的別に見た FD 活動』の「カリキュラム改善」や「組織の整備・改革」に関する諸活動は、広義の意味で FD 活動ではあるが、本学における FD 委員会 (後述「1. 中部大学の FD 活動組織について」を参照) の所掌事項でないため、本報告書からは除外した。また、組織単位で行っている諸活動について評価点検を行うこととしたため、『対象別に見た FD 活動』の中で「授業担当者」個人が対象となっている活動も除外した。

表 1 3 つの観点でみた中部大学の FD 活動 (網掛け項目は除外した項目を表す)

目的別に見た FD 活動	対象別に見た FD 活動	形式別に見た FD 活動
1) 授業・教授法の改善	1) 全学対象	1) 会議・打ち合わせ
2) 教員の資質向上 (研究交流を含む)	2) 学部対象	2) 懇談会
3) FD 活動の企画・運営など	3) 学科・教室対象	3) 講演・報告会・セミナー
カリキュラム改善	(*1) 非常勤を含む	4) ワークショップ
組織の整備・改革	(*1) 学生を含む	5) 制度・システムなど(*2)
	授業担当者	

(*1) : 対象別 1)~3) で非常勤を含む場合, 学生を含む場合

(*2) : 例えば、授業評価システムや FD 関連制度の運用、FD 関連システムの構築、および出版などが該当

なお、本報告書をまとめるにあたり、その基礎資料として各学部等において「FD 活動評価点検報告書 (様式 1)」およびその裏付けとなる「FD 活動実績報告書 (様式 2)」を各年度の終了時点で作成することになった。様式 1 では、学部ごとに、1) 今年度の FD 活動組織、目標等、2) 今年度の FD 活動の取り組み、3) FD 活動に関する課題と今後の計画、の 3 項目について学部長、もしくは学部の FD 責任者が総括し、様式 2 では、教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取り組み、および教員の資質向上を目的とした組織的な取り組みに関する諸活動についてその概要を報告することとしている。

1. 中部大学の FD 活動組織について

本学における教育活動・改善に向けた教員の資質向上策としての FD 活動は、学長を委員長とした全学 FD 委員会のもと、各学部 FD 委員会および各学科組織があり、全学体制の FD 活

動ワーキングが中心となって種々の検討を行っている。また、教育活動顕彰審査選考委員会やFD活動評価点検委員会が図1のように組織されており、FD活動の内容について評価できる体制が整っている。なお、全学FD委員会及び学部FD委員会は、これまで2007年度まで本学に設置されていたFD推進委員会、学部でのFDに関する諸活動を2008年度より新しく改変した組織である。また、大学教育研究センター（教員3名、事務員3名で構成）が主管部署として、FD活動の推進、支援を行っている。

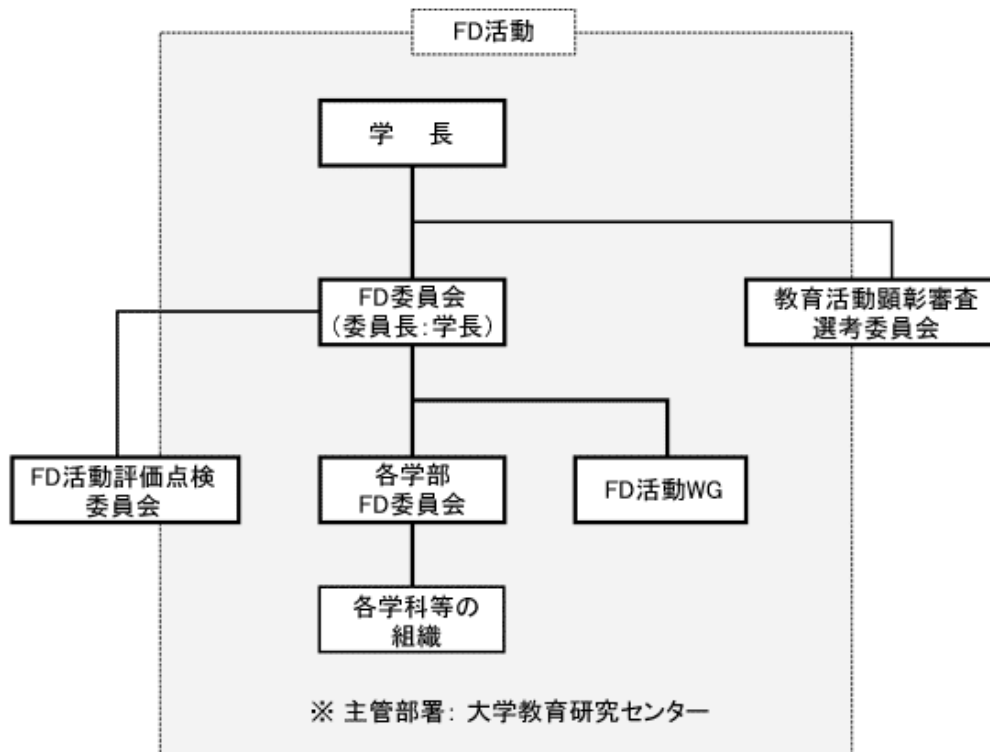


図1 中部大学のFD活動組織図

- FD委員会 : 本学のFD活動全般について、学長を委員長として審議、検討をする。
- FD活動WG : FD委員会の専門委員会として、学部代表のFD委員を中心に主に全学的な活動を企画する。
- FD活動評価点検委員会 : 本学のFD活動全般について、第三者的な立場にたって評価点検をする。
- 教育活動顕彰審査選考委員会 : 教育活動顕彰制度に係る重要事項の審議、および受賞者の審査、選考する。

2. 2008年度のFD活動の重点目標

FD活動の重点目標として『魅力ある授業づくり』への取り組みが5年間を目安として実施されている。2008年度は、この目標を達成するために継続事業を含めて新たな事業に取り組んだ1年目である。授業は教員だけでなく、受講生一人ひとりの参加が不可欠であり、学生の生の声を聞き、学生とともによりよい授業にしていく努力を全学として続けている。こうした中、教育現場である学部では、例えば次のような目標を掲げ、FD活動が積極的に進められている。

- (1) 教育方法・内容の改善向上のための具体的活動（工学部・現代教育学部・教養教育部）
- (2) 初年次教育の実質化と「学習意欲を盛り上げる」能力開発（経営情報学部）
- (3) 情報と実践体験の効果的な活用を取り入れた学生の進路・就職指導（国際関係学部）
- (4) 教員の意識向上、FD 活動を通じた知的コミュニティにいる利点、喜びの創出（人文学部・生命健康科学部）
- (5) 現状の FD 活動運用過程での改善点の洗い出し（応用生物学部・生命健康科学部・国際人間学研究所）
- (6) 学外実習の充実（生命健康科学部）

総じて、『魅力ある授業づくり』を意識し、これまでの具体的活動に対する振り返りや教員意識の向上、学部の特色ある教育における充実対策といった特徴の目標が掲げられた。

3. 2008 年度の F D 活動の取り組み

3.1 全学の取り組み

2008 年度の全学としての取り組みは、大学教育研究センターホームページ（※）に詳細が記されている。形式別にまとめると、①教員による教育活動重点目標の設定、②授業改善の取り組み、③FD フォーラム・講演会、④FD に関連する研修会・説明会等、⑤出版物、⑥教育活動顕彰制度に分けられ、主な点についての現状と評価を記述する。

（※ http://www.chubu.ac.jp/organization/centers/university_education/original_page/fd/index.html）

① 教員による教育活動重点目標の設定

2002 年度より実施したポイント制による「教育活動・改善表彰制度」の一環であった「重点目標・達成度評価表」を、2008 年度の「教育活動顕彰制度」（後述）への変更とともに、本学の FD 活動の一制度として教員個人の教育活動を自己点検することを目的として実施している。

教員（原則として年度当初に在籍している教員全員）は、年度初めに教育活動重点目標を設定し、年度末に自己評価を行い、目標設定時、および自己評価終了時にそれぞれ学部長を経由して学長が承認する。なお、教育活動重点目標・自己評価シートの書式は、基本的な様式は統一するものの従来の全学統一書式（項目）ではなく、学部ごとに設定している。

2008 年度の目標設定者は、年度当初在籍教員 412 人中 373 人、自己評価提出者は、目標設定者 373 人中 357 人であった。

② 授業改善の取り組み

『魅力ある授業づくり』のための主な取り組みとしては、これまでのマークシート・記述式であった「学生による授業評価」を「Web 入力方式」に変更し、新たに「教員による授業自己評価」を「Web 入力方式」で実施、教員が授業の振り返りをするとともに学生からの意見との相違を認識すべく導入した。

「授業評価」は、学期末に自由記述も含めた「学生による授業評価」と「教員による授業自己評価」を共通設問で実施し、その結果の公表は、数値だけではなく、教員による「学生からの自由記述のまとめ」と「教員からのコメント」を全学生、全教職員に対して公開している。また、「学生による授業評価」を従来の学期半ばから学期末に実施時期を変更したため、

学期途中の学生の声を反映した授業改善ができるように「授業改善アンケート」システムを新たに運用した。

「授業改善アンケート」は、授業担当教員が、該当科目の開講学期期間中随時、受講生に対して授業改善を目的としたアンケート（設問、回答選択肢は教員が自由に設定できる、自由記述欄あり）を実施できるシステムである。

2008年度、「Webによる授業評価」の学生の回答率は約13%、教員の自己評価回答率は約50%であったが、自由記述は2007年度に比べて約10倍（春・秋学期合わせて約3,300件）に増えた。また、後者の「授業改善アンケート」は通年で340件程の利用があった。これらの取り組みにおいて、学生の生の声をシステムとして取り入れやすくなった点は評価できるが、今後、学生の回答率アップに向けた教員への働きかけや教員の自己回答率、コメント率をさらにアップさせることが望ましい。

③ FDフォーラム・講演会

6月、3月（2009年）の外部講師によるFD講演会、および12月に『魅力ある授業づくり』に関して上述の「Web入力方式」に変更した「授業評価」後、初めての集計結果等をテーマとしたFDフォーラムを実施した。FDフォーラムでは、初めて学生も参加できるフォーラム形式とした。今後も、学生参加型FDとして学生にも公開できるFD講演会、FDフォーラムを開催し、学生の意見・意識を多くの教員間で共有できるように期待したい。

④ FDに関連する研修会・説明会等

新任教員説明会（総務部主管）では、学長、事務局長、大学教育研究センター長から、本学の建学の精神、大学理念、本学のFD活動等が説明されている。ここでは、大学の説明に重点を置いているため、特に教歴の浅い教員に対する研修的な場を別途設ける必要がある。また、非常勤講師との懇談会（学務部主管）では、全学レベル、学部・学科レベルの分科会を実施しており、非常勤講師を巻き込んださらなる活発な活動が望まれる。

⑤ 出版物

「教育・研究活動に関する実態資料」および「中部大学教育研究」を発刊（大学教育研究センター）しており、前者は様々な基礎データを集約し、学内各種制度や対外的な申請や審査の基礎資料として活用されている。また、後者は、新時代の大学教育の理念・手法・改善策などを論じ合う場を提供し、教育改善・質的向上に役立てることを目的に2001年から刊行されており、教員の情報共有の場ともなっており、その研究論稿は教育研究の分野でも数多く引用されている。

⑥ 教育活動顕彰制度

2007年度まで「教育活動・改善表彰制度」を実施してきたが、学部の多様化にともない学部方針に沿った教育活動が評価できるように2008年度より学部での評価の重みを大きくした。また個人だけでなく組織、グループに対しても表彰できる特別賞を取り入れた「教育活動顕彰制度」を導入した。教育活動顕彰制度のシステムとしての点検評価は、第1回目の審査選考が2009年度に行われるため、次回（2009年度版）のFD活動評価点検報告書で取り上げる。

3.2 学部・研究科での取り組み

2008年度より、学部ごとにFD活動評価点検報告書が作成されており、ここには提出された

報告書から 2008 年度の学部・学科での FD 活動の特記すべき事項を①授業・教授法の改善に関する取り組み、②研究交流を通じた教員の資質向上の取り組み、③FD 活動の企画・運営などの 3 つの目的別に列挙する。

① 授業・教授法の改善に関する取り組み

- (1) 教育 GP を利用した CAD/CAM/CAE 教育の制度
- (2) 学生との懇談会
- (3) FD 合宿
- (4) 授業反省会

② 研究交流を通じた教員の資質向上の取り組み

- (1) 教育資質向上のための研究報告会
- (2) 外部機関と実習指導に関するセミナー

③ FD 活動の企画・運営など

- (1) 中堅教員と新任教員との懇談会
- (2) ネット討論会
- (3) FD 会議や定例学科・教室会議などでの調査報告や企画運営など

今後、これらの取り組みについてその実績や成果を「中部大学教育研究」(3.1 ⑤出版物を参照) や学内広報誌に公開されることが望ましい。

4. FD 活動に関する課題と今後の計画

全学の課題としては、引き続き『魅力ある授業づくり』を目指して、授業評価の回答率(学生による授業評価回答率、教員による授業自己評価回答率、教員によるコメント率)のアップ、授業オープン化制度の実質化、教員研修制度の実施などが望まれる。

一方、学部学科レベルでは、それぞれ学部学科の性格・特徴を生かして、一人ひとりの教員に対して『魅力ある授業づくり』における積極的な取り組みを促していくことが必要である。